令和６年度第５回熊谷市地域公共交通会議

議　案　書

令和７年１月２０日

議　事

議案第１号　地域内フィーダー系統（ほたる号）補助の評価（案）
について

議案１

地域内フィーダー系統（ほたる号）補助の評価（案）について

ゆうゆうバス「ほたる号」は生活交通確保維持改善計画に基づき、毎年運行経費の一部について国の補助金「陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）補助金」を受けております。

「ほたる号」は、国の定める交通不便地域「公共交通利用圏域（鉄道駅より半径１㎞以内、又はバス停より半径３００ｍ以内）以外の部分」として認定を受けており、令和６年度分の事業評価につきまして、交通会議で協議をお願いするものです。

令和6年度　地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）（地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和7年1月　　日

協議会名：　熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名：　地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
国際十王交通株式会社	コミュニティバス江南地区路線「ほたる号」 （R5.10.1～R6.3.31）22.8km （R6.4.1～）23.8km 【運行日】平成23年10月1日運行開始。毎日運行。ただし、1月1日から1月3日まで運休。 【運行回数】 （R5.10.1～R6.3.31）1日5．5往復（R6.4.1～）1日4．5往復 【運行ルート】江南行政ｾﾝﾀｰ～熊谷駅南口～江南行政ｾﾝﾀｰ～籠原駅南口～江南行政ｾﾝﾀｰ 【運行車両】ノンステップバス1台 【運賃】（R5.10.1～R6.1.31）（1）1回の運賃100円（2）1日乗車券300円（3）回数券（11枚綴り）1,000円（4）運賃の免除について　未就学児、障害者手帳（3種）所持者及びその介助・付添人1人、運転免許自主返納者（無料乗車証か運転経歴証明書の提示） （R6.2.1～）（1）1回の運賃200円※小児100円（2）1日乗車券500円（3）回数券（10枚綴り）2,000円（4）スマホ回数券（10枚綴り）1,500円（5）運賃の免除について　従前に同じ	・バスマップを増刷、配布し、周知に努めた。 ・熊谷市地域電子マネー「クマPAY」と連動したキャッシュレス決済：スマホ回数券を導入し、利便性の向上を図った。 ・住民要望や都市計画道路の幅員拡張工事に応じ、運行事業者と調整しながら一部運行路の変更を行い、利用者の増加を図った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	【年間利用者数】 （R5.10.1～R6.9.30） 《目標》：25,000人 《実績》：20,710人 《分析》：目標から2割程落ちるが、要因は社会情勢の変化によるやむを得ない要素である。まず、運行経費の高騰、民間バス路線との競合解消のため、R6.2.1に運行開始後初の運賃改定に至ったことで、従前比で約1割の利用者減に至っている。また、R6.4.1には、運転士の働き方改革に伴い、1便の減便に至っており、更に約1割の利用者減に至っている。 【公共交通に満足している当該エリア住民の割合】 （R6.2時点市民アンケート調査） 《目標》：37%以上 《実績》：51% 《分析》：当該路線を含むバス路線網の充実により、目標を上回る結果となっていると考えられる。	【既に実施した利用促進策】 ・江南地区の地元自治会と一緒に周知を行い、更なる利用者の増加に努めた。 ・ゆうゆうバスのルート、ダイヤ、バス停をGTFS（General Transit Feed Specification）形式で整理し、Google マップに反映した。また、オープンデータとして埼玉県オープンデータポータルサイトに公開した。 【今後の改善点】 ・最大限運行本数を維持させつつ利便性向上とその周知による利用促進を図っていく。また、路線バス等と乗り継ぎポイントを設置するなど、既存の公共交通を補完、連携しながら地域の交通利便性を高めるなどの検討を行い、互いの維持に努める。

別添１－２

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月　日

協議会名：	熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	熊谷市地域公共交通計画の基本方針 1　地域公共交通の再編及び接続強化による利用しやすい公共交通網の構築を目指す 2　輸送資源の総動員による持続可能な公共交通環境の構築を目指す 3　新たな需要を取り込むための他分野・産業との連携を目指す 4　公共交通の利用促進、利便性向上のため、MaaSの実現等を目指す 上記を踏まえたフィーダー系統維持の目的・必要性 本市の公共交通機関相互の連携・共存を図り、利便性と採算性のバランスが取れた公共交通網の充実を目指す 江南地区北部エリアの公共交通不便地域における市民の交通手段を確保する